

環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 24

フジシールグループ

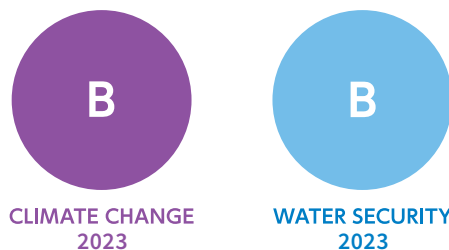
CDP2023 評価結果と 温室効果ガス削減取り組み

フジシールグループでは、気候変動・海洋プラスチック問題(生物多様性)・資源枯渇を重要課題として位置付け、製品・サービスを通じて環境に貢献し、製造時における負担低減に向けて取り組んでいます。これらの取り組み状況を客観的に捉え、次なる改善につなげるために、2023年度もCDPによる評価を受けました。CDP2023評価結果と温室効果ガス削減取り組みについてご紹介します。

■ CDP

株式会社フジシールインターナショナルは、CDP2023「気候変動」・「水」において、マネジメントレベル「B」評価を獲得しました。

CDP 2023 評価結果

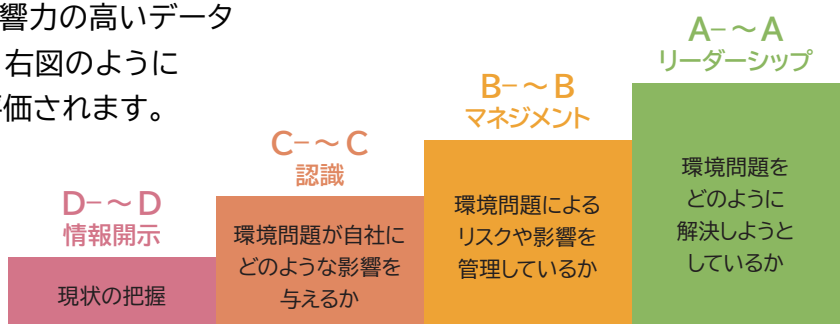


CDP とは…

CDPは2000年に英国で設立したNGOであり、投資家・企業・都市・国家・地域が環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営。その情報開示システムは、8,000社以上からの回答を受け、650社を超える投資機関や115社以上の大手購買企業が活用する影響力の高いデータの一つとして知られています。右図のように4レベル、8段階(A~D-)で評価されます。



【CDPウェブサイト(英文)】
<https://www.cdp.net/>



環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 24

フジシールグループ

CDP2023 評価結果と
温室効果ガス削減取り組み

■温室効果ガス(GHG) 排出量推移と削減取り組み

フジシールグループでは、環境ビジョンの中でも『価値を創造する』取り組みに焦点を当てていますが、『価値をまもる』取り組みにも注力しています。

人類共通の重要課題である気候変動について、FSGでも重要な取り組みの一つとして位置付けています。2022年度FSGでは、欧州、日本に次いで米州、アセアンでも再生可能エネルギーの使用が始まりました。それにより、製造拠点を持つ4リージョンで総量6,461MWh（総電気使用量の3.5%）の再生可能エネルギーの調達を行うこととなり、各リージョンにて事業を拡げながらもCO₂削減を行う最初の一歩となりました。

国内では、筑波工場の印刷貫流ボイラー（2台）の更新により年間164.09t/CO₂の削減、海外ではフランスのオキシダイザーの更新により、年間283.10t/CO₂の削減に貢献しました。2024年1月には、ドイツ工場において購入電力のすべてを100%再生可能エネルギー由来に切り替えました。これにより、年間約911tCO₂の削減を見込んでいます。同時期に日本の筑波工場では、自己所有自己消費型、総面積1,289㎡の太陽光パネルの稼働を開始し、年間約150tCO₂の削減を見込んでいます。

CDPIによる評価を踏まえ、今後も低炭素社会への移行に向けた経営戦略への反映を進めて参ります。

